



福島西ロータリークラブ

WEEKLY REPORT

2026-27年度 会長：寺島英樹

幹事：穴戸順一

例会場：エフズサンパレス

第9回例会

セミナー参加報告

- 開会点鐘
- 国歌斉唱
- ロータリーソング「奉仕の理想」
ソングリーダー 佐久間政文会員

- お客様
- 副会長挨拶 佐藤宗弘副会長
- お食事
- 幹事報告
- 委員会報告
プログラム・出席・スマイルボックス小委員会報告
久米允彦会員

- 本日のプログラム
《地区セミナー参加報告》
社会・国際奉仕委員会・R財団委員会セミナー
黒澤信之社会奉仕小委員長
高橋智弘R財団委員長
青少年奉仕委員会セミナー
宮崎秀剛青少年奉仕小委員長

- 閉会点鐘



ソングリーダー
佐久間政文会員



スマイルボックス
久米允彦会員

●副会長挨拶 佐藤宗弘副会長



皆さん、こんにちは。先ず以て、久米会員におかれましては療養期間を経ての例会参加に嬉しい限りです。復帰されるのを心待ちにしておりました。さて、11年ぶりの大型連休シルバーウィークは如何お過ごしでしたか？本日はこの間、ロータリー活動がございましたのでご報告を以て、あいさつとさせていただきますのでご承知願います。先ず、9月12日(土)は我がクラブの第1回親睦ゴルフ大会が安達太良カントリークラブで開催され、ゲスト2名をお招きし総勢12名参加のもと開催されました。天候も良好の中、白熱したプレーが展開され、終始笑いの絶えない大会となりました。表彰式を兼ねた懇親会では当日誕生日を迎えられた八木澤会員へのサプライズお祝いにより会は最高潮となりました。22日(火)は東北地区親睦野球大会前夜祭が二本松ロータリークラブ主管のもと、アーバンホテル二本松にて岩手・宮城・山形・福島の前4県による

ロータリークラブ野球同好会関係者90名が一堂に会し、盛大に開催されました。我がクラブから久米会員・黒澤会員・穴戸会員・朝倉会員・佐藤(宗)の5名が出席、和気藹々と親交を深められ、クラブを超えて友情を築く良い機会となりました。なお、久米会員におかれましては東北地区野球連盟の事務局長として平成8年から30年の長きに亘り務めていただき、この度、次世代へバトンタッチすることになりましたが本当にお疲れさまでした。この場をお借りして改めて感謝申し上げます。翌日の23日(水)は二本松RCとの定期戦に備えて、偵察に行っていました。25日(金)は我がクラブの青少年健全育成事業である第29回少年野球大会にかかる代表者会議が開催され、実行委員会組織メンバー7名が参加、大会運営について協議、組み合わせを決定しました。詳細は理事会を経てご報告させていただきますので宜しくお願いいたします。最後となりますが、先日27日(日)福島RC主催の第6回スポGOMI大会inふくしまが開催され、総勢600名・135チームの参加、我がクラブからは9名(ジン コラットさん、穴戸幹事・朝倉会員・大内会員・高橋(智)会員・行形会員・松林会員・宮崎会員・佐藤(宗))3チーム編成により飛び賞狙いで参加、結果はなんと穴戸幹事・行形会員・ジンコラットさんのチームが飛び賞80位となりました。ポイ捨てを減らすための一人ひとりの意識向上や地域全体で環境美化に取り組むことの大切さを改めて感じさせられた時間となりました。以上、各種活動にご参加いただきました皆さまに感謝申し上げます。詳細な内容につきましてはクラブホームページの活動報告にアップさせていただきますのでご覧になっていただければ幸いです。

また、9月理事会にて承認されました石川美云さんの入会につきまして、会員の皆さまに周知させていただきましたが、意義申し立てがございませんでしたので10月5日の例会にて入会式を執り行いますので、黒澤会員増強委員長はじめ、皆さまのご協力の程、宜しくお願いいたします。

本日のプログラムは地区セミナー報告となっております。黒澤信之社会奉仕小委員長・高橋智弘ロータリー財団委員長・宮崎秀剛青少年奉仕小委員長におかれましてはどうぞ宜しくお願いいたします。

社会・国際奉仕委員会／ロータリー財団委員会セミナー報告

黒澤信之社会奉仕委員会委員長



8月2日、郡山ユラックス熱海において、国際ロータリー第2530地区2026-27年度「社会・国際奉仕委員会・ロータリー財団委員会合同セミナー」が開催され、高橋智弘財団委員長とともに参加してまいりました。セミナーは12時30分、金田がバーナーによる開会点鐘により始まり挨拶をいただいた後、右近八郎ラーニングファシリテーター挨拶、各委員会担当相談役挨拶として石黒秀治社会国際奉仕担当相談役、ロータリー財団担当相談役として平井喜朗担当相談役より挨拶を頂き、前半の社会国際奉仕委員会セミナー、後半のロータリー財団セミナー・補助金管理セミナーという2部構成により16時30分までの日程で行われました。当日は92名の参加登録でありました。

私からは、第一部の社会・国際奉仕委員会セミナーについてご報告いたします。こちらのセミナーは、モンゴルのロータリアン、ナルマンダフ・サンダグスレン氏による「ロータリーの奉仕でつながる日本とモンゴルの友情」と題した講演でした。ナルマンダフ氏は1972年生まれ。モンゴル国立大学で土木建築を学んだ後、日本へ留学され、北海道大学大学院を経て、東京大学大学院工学系研究科の博士課程を修了されています。現在は経営コンサルタントとして活動する一方、モンゴルのフレ・ロータリークラブに所属し、2021-22年度にはクラブ会長も務められました。また、ロータリー財団の補助金を活用した数多くの奉仕事業にも携わっておられます。講演では、そうしたロータリー活動とともに、ご自身と日本との長い関わりについてもお話しされました。ナルマンダフ氏が日本へ留学されたのは、モンゴルが社会主義体制から民主化・市場経済化へと大きく変わり、旧ソ連の強い影響から離れて間もない時代でした。当時のモンゴルと日本では生活環境に大きな違いがあり、来日したばかりの頃には、さまざまなカルチャーショックを受けたそうです。その中でも印象に残ったのが、初めて見た食器用洗剤をシャンプーだと思ったこと。また、コーラを買ってもらったものの、缶の開け方が分からなかったことなどを、笑いを交えながら話されていました。今では何でもないことのように思えますが、当時のモンゴルから日本へやって来た若者にとって、日本での生活そのものが未知の世界だったことがうかがえるエピソードでした。そして、日本で学び、多くの日本人に支えられた経験から、ナルマンダフ氏は日本に対して非常に強い感謝の気持ちを持っておられます。講演の中で、**「日本は私にとって第二の母国です」**と語られたことが、特に印象に残りました。その後、ナルマンダフ氏はロータリアンとして、モンゴルにおける医療や教育など、さまざまな奉仕事業に関わってこられました。日本をはじめ世界各国のロータリアンとの協力によって多くの事業が実現し、それがまた国を越えた人と人との交流や友情につながっているというお話でした。今回の演題は、**「ロータリーの奉仕でつながる日本とモンゴルの友情」**です。ナルマンダフ氏のお話を聞いて、ロータリーの国際奉仕とは、単にお金や物を提供することではなく、同じ目的を持って一緒に活動することで人と人とのつながりが生まれ、それが長く続く友情へと発展していくものなのだと感じました。そして、日本で多くの人に支えられた一人のモンゴル人留学生が、やがてロータリアンとなり、今度は自らが奉仕を通じて日本とモンゴルをつなぐ役割を担っている。ナルマンダフ氏ご自身の歩みそのものが、今回の講演テーマを表しているように感じました。以上、合同セミナーの参加報告といたします。

高橋智弘ロータリー財団委員会委員長



本日は、ロータリー財団についてお話をさせていただきます。「ロータリー財団」と聞きますと、皆さんはどんなイメージを持たれるでしょうか。「寄付をするところ」「毎年、財団への寄付をお願いされる」あるいは、「地区補助金やグローバル補助金を扱っているところ」そんなイメージの方も多いのではないのでしょうか。もちろん、どれも間違いではありません。「ロータリー財団とは、いったい何のためにあるのか」ということです。

まず、ロータリー財団について簡単に説明します。ロータリー財団は、1917年に設立されました。そして、ロータリアンから寄せられた寄付を財源として、世界中でさまざまな奉仕活動を行っています。

現在では、

・平和の推進 ・疾病との闘い ・水と衛生 ・母子の健康 ・教育支援 ・地域社会の経済発展 ・環境保全

など、世界中のさまざまな分野で活動しています。特に有名なのが、**ポリオ根絶運動**です。ロータリーは長年にわたり、ポリオを世界からなくすために活動してきました。これは、ロータリー財団の大きな成果の一つです。考えてみれば、福島西ロータリークラブの一人の会員が、海外の子どもたちのためにワクチンを届けることは簡単ではありません。しかし、一人ひとりのロータリアンが少しずつ力を出し、クラブがまとまり、地区がまとまり、そして世界中のロータリアンが力を合わせる。そうすると、**一つのクラブではできないことが、世界規模でできる**。これがロータリー財団の大きな力だと思えます。ロータリー財団は、「寄付を集めるための組織」ではありません。もちろん、財団を運営し、奉仕活動を行うためには寄付が必要です。しかし、本当の目的はその先にあります。皆さんからいただいた寄付を、「より良い社会をつくるための奉仕」に変えていく。これが財団の役割です。私は財団を、「**私たちロータリアンの善意を、実際の奉仕に変える仕組み**」だと考えています。例えば、「子どもたちの教育を支援したい」「地域の人たちに安全な水を届けたい」「病気で苦しんでいる人を助けたい」「世界の平和に貢献したい」そういう思いがあったとしても、一人の力だけではなかなか実現できません。そこでロータリー財団があります。皆さんから寄せられた寄付を大きな力にして、必要としているところへ届けていく。だから、寄付そのものが目的ではなく、寄付によって生まれる奉仕が目的なのだと思います。

では、「自分が財団に寄付したお金は、どうなるの？」という疑問があると思います。ロータリー財団にはいくつかの基金があります。代表的なのが、**年次基金**です。毎年、会員から寄せられた寄付をもとに、将来の奉仕活動につなげていきます。そして、**ポリオプラス基金**。これは名前の通り、ポリオ根絶のための活動を支えるものです。さらに、**恒久基金**があります。これは将来にわたってロータリーの活動を支えるための基金です。つまり、「今年の奉仕」だけではなく、「10年後、20年後、さらにその先の奉仕」まで考えているわけです。ここがロータリー財団の非常に素晴らしいところだと思います。そして、私たちクラブにとって非常に身近なのが、**地区補助金**です。

これは、ロータリー財団の資金を活用して、地域社会で奉仕活動を行うための仕組みです。例えば、子どもたちへの支援。高齢者への支援。地域の教育活動。社会福祉活動。環境に関する活動。こうした地域の課題に対して、クラブが企画した奉仕活動に財団の資金を活用することができます。つまり、**財団は海外だけのものではありません**。私たちの住む福島地域社会にも活用できるわけです。福島西ロータリークラブでは、昨年の地区補助金は少年野球大会に使われました。3年前の皆様の寄付の約25%（金額にして約16万円弱）の地区補助金が使われました。

そしてもう一つ、**グローバル補助金**があります。こちらは、海外のロータリークラブなどと協力して、比較的大規模で持続可能な国際奉仕プロジェクトを行うための仕組みです。ここでも大事なことは、「自分たちだけでやるのではなく、ロータリー同士がつながって奉仕する」ということです。今年度のRI会長メッセージは、「**持続可能なインパクトを生み出そう**」です。私は、この言葉がロータリー財団を非常によく表していると思います。例えば、一日だけ食料を配って終わり。一回だけイベントをして終わり。もちろん、それも必要な奉仕です。しかしロータリーが目指しているのは、「**その後も良い状態が続いていくこと**」ではないでしょうか。例えば、水がない地域に井戸を作る。それだけではなく、その地域の人たちが自分たちで井戸を管理できるようにする。衛生について学んでもらう。子どもたちが病気になりにくい環境を作る。そうすれば、一つの奉仕が長く続くことになります。これが、「**持続可能なインパクト**」だと思います。

私たち福島西ロータリークラブの奉仕活動についても、「今年何をやったか」だけではなく、「**その活動によって、地域にどんな変化が残ったのか**」という視点を持つことが大切なのではないでしょうか。では、ここから少し福島西ロータリークラブのことを考えてみたいと思います。私たちのクラブにも、「地域のために何かしたい」「子どもたちのために何かしたい」「福島の未来のために何かしたい」という思いがあります。これはロータリー財団の考え方と、まさに一致しています。財団は、「これをやりなさい」と押し付けるものではありません。むしろ、「**皆さんのクラブでは、どんな奉仕がしたいですか？**」と問いかけているのだと思います。そして、「それなら、財団の仕組みを使って、もっと大きな奉仕にしてみませんか」というのが財団なのではないでしょうか。**財団委員会だけが財団を考えるのではなく、クラブ全員で財団を考えていただきたい**と思っています。

ここで、寄付について少しだけお話しします。財団への寄付を、少し負担に感じている方もいると思います。しかし、「自分もロータリーの世界的な奉仕活動に参加している」と考えれば、少し意味が変わってくるのではないのでしょうか。例えば、一人の寄付ではできないことも、10人ならできる。100人ならもっとできる。世界中のロータリアンが参加すれば、さらに大きなことができる。実際、ポリオ根絶運動はその象徴です。**一人の力は小さくても、ロータリーの力になれば大きく**なる。これが財団の原点だと思います。ですから、「いくら寄付するか」だけではなく、「自分もこの奉仕活動の一員なんだ」という気持ちを持っていたらと思います。

では、福島西ロータリークラブとして、これから何をしていくのか。私は三つあると思います。一つ目。**財団を知ること**。まずは財団が何をしているのかを知っていただく。二つ目。**財団を活用すること**。地域の奉仕活動に地区補助金などを活用する。三つ目。**みんなで支えること**。一人ひとりが無理のない範囲で寄付に参加する。この三つだと思います。「知る」「使う」「支える」。この三つがそろえば、福島西ロータリークラブの奉仕活動は、さらに大きく発展するのではないのでしょうか。

最後に、これからも財団委員会から、「財団へのご協力をお願いします」というお願いをすることがあると思います。その時に、「また寄付か」と思わないでいただきたい。できれば、「自分の小さな力が、どこかの誰かの役に立つんだな」と思っていれば嬉しいですね。そして、財団への寄付だけではなく、財団の仕組みを使って、「福島西ロータリークラブとして、こんな奉仕をやってみよう」というアイデアがありましたら、ぜひ財団委員会や会長、会長エレクト、副会長などに相談していただきたいと思っています。ロータリー財団は、お金を集めるためにあるわけではありません。人の思いを集めるためにある。そして、その思いを、奉仕という形に変えるためにある。一人の力ではできないことも、クラブならできる。クラブだけではできないことも、地区ならできる。地区だけではできないことも、世界中のロータリアンが力を合わせればできる。それがロータリー財団です。私たち福島西ロータリークラブも、地域のために福島のために、そして世界のために、これからも一歩ずつ奉仕を続けていきたいと思っています。そして、「私たちの小さな善意が、誰かの大きな希望になる」そんなロータリー財団を、皆さんと一緒に育てていければと思います。ご清聴ありがとうございました。

青少年奉仕委員会セミナー報告

宮崎秀剛青少年奉仕委員会 委員長



本日は、8月30日に郡山市で開催されました国際ロータリー第2530地区青少年奉仕セミナーに参加してまいりましたので、その概要と学んだことについてご報告申し上げます。

今回のセミナーは、「持続可能なインパクトを生み出そう」をテーマに開催され、インターアクト、RYLA、青少年交換、ローターアクト、学友といった青少年奉仕に関する各委員会が合同で実施する大変内容の濃い研修会でした。

セミナーの中で特に印象に残ったのは、「ロータリーが目指す青少年奉仕とは何か」というお話でした。

資料によりますと、ロータリーの青少年奉仕は、単に若者を支援する活動ではなく、「次世代のリーダーを育成すること」と「国際理解を深めること」を目的としているとのことでした。インターアクトは中高生のリーダー育成、RYLA（ライラ）は若手リーダーの養成、青少年交換は異文化理解の促進、ローターアクトは若者による奉仕活動の実践の場として、それぞれが位置付けられています。

また、日本全国の青少年奉仕活動を支援する「RIJYEM（ライジェム）」という組織についても説明がありました。全国インターアクト研究会や全国RYLA研究会、日本青少年交換研究会などを支援し、各地区の活動水準向上に取り組んでいるとのことでした。昨年度は全国インターアクト研究会が福島県で開催されたとの紹介もあり、私たちの地区が全国的な事業にも積極的に関わっていることを知ることができました。

私は今回、RYLAグループの分科会に参加いたしました。

グループディスカッションでは、各クラブが抱える課題や取り組みについて活発な意見交換が行われました。特に、少子化が進む中で若い世代との接点をどのように増やしていくか、また青少年奉仕をどのように継続していくかという点について、多くの意見が出されました。

その中で感じたのは、青少年奉仕は短期的な成果を求める活動ではなく、長い時間をかけて地域のリーダーを育てる活動だということです。参加した若者が将来、地域や企業で活躍する人材となり、さらにロータリーの理念を理解する存在になっていく。そのような長期的な視点が大切であることを改めて学びました。

また、私も福島西ロータリークラブには、現在インターアクトクラブやローターアクトクラブがありません。そのため、日頃は実際の活動内容に触れる機会も限られています。

今回のセミナーでは、インターアクトクラブを提唱しているクラブや、ローターアクトと連携しながら活動しているクラブの事例を直接うかがうことができました。若い世代が主体となって地域奉仕や社会貢献活動に取り組む姿勢や、それを見守り支援するロータリアンの取り組みは大変参考になりました。

そして、「クラブにインターアクトやローターアクトがあること」が目的ではなく、「若者に成長の機会を提供すること」が青少年奉仕の本質であることにも気づかされました。

福島西ロータリークラブとしても、必ずしもインターアクトやローターアクトを持っていなければ青少年奉仕ができないわけではありません。RYLAへの参加推進や青少年交換事業への協力、あるいは地域の若者と関わる機会をつくるなど、私たちのクラブに合った形で青少年奉仕に取り組む余地は十分にあると感じました。

私は仕事を通じて多くの経営者や地域団体の方々とお会いしますが、「地域を担う若い人材が不足している」という声をよく耳にします。だからこそ、ロータリーが長年取り組んできた青少年奉仕は、地域社会の未来への投資であり、極めて重要な活動であると改めて感じました。

今回のセミナーを通して、青少年奉仕は単なる奉仕活動ではなく、未来の地域社会を支える人材育成そのものであることを学びました。今後は今回得た知識や他クラブの事例を参考にしながら、福島西ロータリークラブとしてできる青少年奉仕活動について考え、実践してまいりたいと思います。

以上、青少年奉仕セミナーの参加報告とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。



スマイルボックス 久米允彦 委員

●佐藤宗弘副会長

久米会員、おかえりなさい。無理せずゆっくり慣らしてください。本日のプログラム、黒澤会員、高橋智弘会員、宮崎会員による地区セミナー参加報告よろしくお願いいたします。

●穴戸順一幹事

スポGOMI大会への参加お疲れ様でした。今日は久米さんが参加でお元気で良かったです！

●西形健吉会員

19日のゴルフ、最悪の結果となりました。悔しさを挽回しようとして翌日の競馬を頑張ったところ、トリプル万馬券を的中しました。

●行形裕司会員

昨日のスポGOMIは初参加でご受賞して良かったです。

●黒澤信之会員

今日はセミナー参加報告させていただきます。よろしくお願いいたします。

●宮崎秀剛会員

連日お疲れ様です。本日もよろしくお願いいたします。

●高橋智弘会員

補助金セミナーの報告をさせていただきます。久米さんおかえりなさい。

●佐久間政文会員

久米さん、お帰りなさい！

●久米允彦会員

皆様にはご心配、ご迷惑をお掛けしました。3ヶ月弱の闘病生活を経て、奇跡的に復活しました。

大平謹一郎会員／佐藤卓立会員／八木澤直樹会員

【幹事報告】

・次週10/5(月)は新会員入会式を執り行いますので黒澤会員増強委員長はじめ皆さまのご協力、宜しくお願いいたします

・10月開催の5日と19日の例会時において10/24世界ポリオデーに因んだ取り組みを行いますので、皆さまのご協力をお願いいたします